

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１ 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

２ 学校経営の理念（目指す学校像含む）

２１世紀の知識基盤社会の時代を生きる人間を育てるに当たり、生徒の自己教育力を高める創造的な学校経営の推進を柱として、生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育み、生徒が自分の未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。そのために、教職員は同僚性を十分に発揮し、生徒の育ちのプロセスを的確にとらえ、価値のある賞賛と励ましにより「自己肯定感」を育成する。

３ 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）確かな学力の定着

・授業時数の確保と学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開，個に応じた指導の工夫，さらには指導と評価の一体化を推進することにより，基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育成し，確かな学力の定着を図る。

（２）心の教育の推進

○心に響く道徳の授業，読書活動，あいさつ運動，人権教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体を通して，思いやりにあふれた心の教育を推進する。

（３）生徒指導の充実

・一人一人の家庭的な背景を踏まえながら，生徒とのコミュニケーションを重視し，信頼関係の構築に努める。
○自律の精神を培うために，「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成）の推進を図る。
○問題行動の未然防止，早期発見，解決に向けて，家庭や他機関との連携を図りながら組織的に取り組む。

（４）健康・体力の向上

○食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
・新体力テストの結果を活用し，進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。

（５）特別支援教育と教育相談の充実

・生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう，校内支援委員会の機能を生かして組織的に取り組む。
・不登校の防止や解消，生徒一人一人の悩みの解消を目指し，明るい学校生活を実現するために，教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。

（６）家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

○地域の教育力を生かし，家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに，地域に信頼される学校づくりを推進する。

（７）教職員の使命と資質の向上

・時代や生徒，保護者のニーズに応えるため，教職員としての使命を深く自覚し，協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。また，業務の適正化に努め健康管理に配慮する。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】 「未来を見つめ、学び続ける力の育成」

～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

４ 教育課程編成の方針

学校経営計画 今年度の重点目標「生徒の自己教育力を高める，創造的な学校経営の推進」に則り，教育課程のスリム化・重点化を図って，確実な授業時数と指導に関する研修の機会を確保し，生徒と教職員が見通しとゆとりを持って生活や業務にあたれるよう教育課程を工夫する。

５ 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 生徒の自己教育力を高める，創造的な学校経営の推進－生徒の主体的な活動と自己肯定感を助長するための指導の工夫－
・校内の組織的な取組や時間管理への意識を高めるとともに，業務の適正化を図る。

【学習指導】

- 自らの考えを進んで表出し、自己肯定感をもって学ぶ生徒の育成
- ・本時のねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成

【生徒指導】

- 家庭や地域との連携を深め、心豊かで思いやりのある生徒の育成
- 価値のある称賛と励ましを通して、自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 自己の健康、体力の状況を的確に理解し、進んで健康、体力の向上に励むたくましい生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	主体的、対話的で深い学びを促す教材教具の導入に努め、子どもとともに、本時の学習のめあてを明示し、生徒が意欲的に学習に取り組める授業を展開する。	B	【達成状況】教職員 95.5%、保護者 94.3%、生徒 92.6%と全て 90%以上を達成している。 【次年度の方針】学習のめあての提示や教材・教具の工夫、生徒用タブレットの導入など、生徒が主体的に学習に取り組める授業の工夫に努め、深い学びにつなげる。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	自分との関わりで、道徳的価値を考えたり、他との関わりを多面的・多角的に考えたりする授業の実践など、これまでの道徳の時間の授業の課題を踏まえた授業改善を図る。	B	【達成状況】教職員、保護者、地域住民、生徒と全て 80%を達成している。特に、教職員の肯定的回答は、昨年度と比べて 12%上昇し、86.4%であった。 【次年度の方針】道徳科の授業での考え議論する場面において、思いやりについて深く考えさせることを継続して指導する。また、日頃の学校生活においても、思いやりのある言動がとれるよう指導支援に努める。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	授業・日常生活の決まりやマナーの状況について全教職員で情報を共有し、課題を明確にした上で場に応じた指導に当たる。その際善い行いは称賛し、きまりやマナーを守ろうとする意欲を高める。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答が 93.2%、保護者も 90.5%と宇都宮市の肯定的回答と比しても、ほぼきまりやマナーは守られているとの認識である。しかしながら、まだ改善の余地もありそうなので、次年度につなげる。 【次年度の方針】全職員の共通理解のもと、継続指導したい。また、生徒自らが考えるマナーアップの方策を手助けする体制を整える。交通安全教室を実施し、生徒個々の意識の高揚を図る。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<u>あいさつ運動の推進を掲げる生徒会活動を活性化させ、</u> <u>あいさつの意義を自覚させるとともに、生徒同士がすすんであいさつが出来るように支援する。</u>月ごとに生活委員会とともに全教職員が通学路で「あいさつ運動」を行い、校内でも教職員からすすんであいさつの励行に努める。	B	【達成状況】教職員のあいさつに対する期待度が高く 72.7%と低い値であるが、保護者は 87.6%、生徒は 94.7%と宇都宮市の中学校の平均と同等位の肯定的回答の数値である。しかしながら、コロナ禍もあり、明るく爽やかなあいさつとなると疑問も残る。 【次年度の方針】あいさつ運動を継続強化するとともに、社会に出て通用する TPOを意識したあいさつの実践を身に付けさせるよう指導を続ける。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。	年度や学期の節目、学校行事や部活動などにおいて、適切な目標を主体的に立て、個	B	【達成状況】 ・肯定的回答が生徒 85.7%、教職員 79.5%、保護者が 85.8%となっており、概ね目標は達成できている。

目指す生徒の姿	【数値指標】 肯定的回答 80%	人やグループ、学級で取り組むことにより、生徒に達成感や成就感を味わわせる。		【次年度の方針】 ・学校行事などを通して粘り強く目標に向かって取り組めるよう支援する。 ・日々の生活において、達成可能な目標をこまめに設定することによって、達成感や自己有用感を持たせるよう工夫する。【達成状況】
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒が危険を予測し、自らの健康や安全を守るための行動力を身に付けられるよう、交通安全教室の実施や教育活動全体を通じた安全教育を推進する。 学校と家庭との連携のもと全校で「お弁当の日」を年2回実施する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が 84.1%、保護者・地域住民・生徒の肯定的回答は 90%以上となっており、目標は達成できている。 【次年度の方針】 ・引き続き、家庭科や体育科、給食・出前講座等により健康に関する意識の高揚に努める。 ・交通安全教室や避難訓練、登下校指導、日々の指導を行い、安全に関する意識の高揚に努める。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	各種ボランティア活動への参加や働く人に学ぶ授業、事業所等での職場体験（宮っ子チャレンジ）を通して、生徒に働くことの尊さを実感させ、他人を思いやる心や社会に貢献しようとする態度を育み、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせる。	B	【達成状況】教職員は 79.5%、保護者は 85.8%、生徒は 85.7%で、コロナ禍の中で、活動ができなかったが高評価であった。 【次年度の方針】本校は各種ボランティア活動が盛んで社会貢献できる体制は整っているため、啓発に努めたい。社会体験活動を通して、さらに社会に貢献しようとする態度を育てていく。
	A 8 生徒は英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	英語の授業でコミュニケーション力を高める学習活動を多く取り入れる。英語科の教員を中心に A L T も活用して、日頃から英語で会話を増やし、生徒に英会話への自信を持たせる。	B	【達成状況】教職員、生徒とも 80%を超えている。特に教職員は昨年よりも 20.1%上昇し宇都宮市の中学校の平均との比較でも上回っている。 【次年度の方針】英語科の授業において、ALT のさらなる活用とコミュニケーション能力を高める学習活動を取り入れ、英会話への自信をつけさせる。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒が、郷土宇都宮の歴史や伝統文化、産業などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるよう、総合的な学習の時間を中心として、体系的に学習できるよう指導の充実を図る。	A	【達成状況】教職員は 47.7%であったが、保護者は 67.6%、生徒は 77.6%であった。 【次年度の方針】次年度から総合的な学習の時間に位置づけられる「宇都宮学」を通して、生徒が郷土への愛情と誇りをもてるよう継続的に指導していく。
	A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	国語や学級活動等の学習を活用し、生徒が調べ学習を行う際の学校図書館の利用方法などについて発達の段階に応じた指導を行う。I C T や学校図書を使った授業を展開し、生徒の主体的、対話的で深い学びを促進し生徒の情報活用能力の育成に努める。	A	【達成状況】教職員は 77.3%、保護者は 68.5%、生徒は 75.9%と昨年度よりすべて上昇しているが、数値指標には届かなかった。 【次年度の方針】次年度から導入される一人一台のタブレット端末を活用した授業の実践や生徒の主体的、対話的で深い学びにつながる授業の展開に努め、より一層の情報活用能力の育成を図る。
	A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	高齢者の知恵や人生経験に学び感謝や敬う心を育むため、道徳の時間などで、高齢者を扱った学習活動を設定する。また、身近な存在として感じるができるよう、高齢者を体育祭へ招待するなど、交流する機会の設定を工夫する。	B	【達成状況】肯定的回答は、教職員は 86.4%・保護者 83.2%・生徒 89.2%と高い値ではあるが、宇都宮市の中学校と比較するとそれぞれやや低い値である。しかしながら、本校だけの値は昨年度より大きくアップしている。特に教職員の見方が 12.0%上昇した。道徳の授業などを通して高齢者との良好な関わり方や思いやりの心を育てることに手ごたえを感じている。 【次年度の方針】ボランティア活動や学

				校行事等で高齢者とともに活動することで、高齢者へのいたわり、思いやりの心などの醸成を図る。また、昨年度同様、道徳などの授業でも、題材として「高齢者へのいたわり・思いやりの心」を推奨する。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	社会科を中心に、各教科等の授業とこれまでの学校行事や体験活などを、エネルギーや環境の問題と関連付け、また、生徒や地域の実態を考慮しながら、ESD(持続可能な開発のための教育)の取組を推進する。	B	【達成状況】生徒は 70.8%であったが、教職員は昨年度よりも 40.1%上昇と飛躍的に伸びている。 【次年度の方針】総合的な学習の時間で本年度行った「持続可能な社会」についての生徒のプレゼンテーションを継続指導し、より一層の関心を持たせる。また、現在行っている委員会活動の中に「持続可能な社会」につながることもあることも意識させる。
	B1 生徒は時間を守り時間を大切にしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	朝の読書活動から日課時間を守るなど、生徒自ら行動がとれ、自信につながるよう、認め励ます指導に努める。 ノーチャイムの実施により、時間を見て行動する力を身に付けさせる。	B	【達成状況】肯定的回答は、教職員 95.5%・保護者 93.1%・生徒 87.0%と高い値になっているが、まだ指導できることや、意識の高揚を図れることがあると思われる。 【次年度の方針】自ら時間を意識した行動が取れるよう指導を継続したい。また、生徒会で謳っている5分前行動・2分前着席も推奨する。そして、自分はやればできるんだという自信と自己肯定感を養う。
	B2 生徒は、<u>授業や部活動などで一人一人が課題を持って体力の向上に取り組んでいる。</u> 【数値指標】 肯定的回答 80%	体力向上に向けた研究を行い、体育科を中心に、繰り返し継続して行う学校全体の体力向上計画を作り、年間を通して実施する。また、<u>全校体制で、投力の育成や一人一人の課題解決を保健体育の授業や部活動において促す。</u>	B	【達成状況】 - 肯定的回答が教職員 68.2%、保護者 92.4%、地域住民 88.9%、生徒 92.6%であった。 【次年度の方針】 - 授業や部活動をととして、体力の向上が達成できたという実感・成就感を味わう場面を作る。
	B3 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考え発言している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	学習のねらいを授業の始まりに提示したり、本時で育てたい力を明確にしたりして、生徒に授業の見通しを立てさせ、自分の考えから発言できる力の育成を図る。	B	【達成状況】教職員は 70.5%であったが、生徒は 83.2%であった。 【次年度の方針】毎時間のねらいの提示やこの授業で育てたい力を意識して指導することにより、生徒に授業の目標や見通しを意識させる。また、日頃から生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できるような学級の雰囲気作りに努める。
目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	特別な支援が必要な生徒に対して、個別の支援計画を作成・活用し、学級、学年だけでなく学校全体で指導にあたる。その際、「かがやき」「ステップアップルーム」等の特別支援資源も有効活用する。 「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用を図りながら、適切な合理的配慮の提供に努める。	B	【達成状況】肯定的回答は、教職員が 95.5%と昨年の回答と比しても 5%程伸びている。 【次年度の方針】特別支援学級での支援はもちろんのこと、通常学級における要支援生徒を把握し、SCやMSなどとも連携して情報交換しながら適切な支援体制を構築していく。また、必要に応じてケース会議をもち、全職員が共通理解のもとで支援していく。「かがやきルーム」や「ステップアップルーム」も有効に活用しながら支援していく。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	いじめに関する道徳の授業を全クラスで実施し、人権教育の観点から「言葉」の指導を日常的に行っていくなど、日頃からいじめにつながる言動に対し、敏感に、かつスピード感をもって組織的に対応していく。	B	【達成状況】全般的に宇都宮市の中学校と比べるとやや低い値になっているが、本校としては昨年度よりは、大きく伸びている。 【次年度の方針】1年間を通して、いじめはどんな場合でも絶対に許されないという意識を持たせたい。道徳の題材にもいじめに関するものを多く取り入れる。また、いじめゼロ強調月間に合わせての取組から、生徒の意識が高まるよう指導していく。年間4回実施している「学校生活アンケート」による現状把握といじめ早期発見に次年度も努める。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	「挨拶」「励まし」「称賛」等のお互いをより身近に感じることができる気軽な言葉かけを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を授業の中に設定したりするなど、どの生徒にとっても自分の居場所となるような温かい雰囲気学の学級経営に努める。	B	【達成状況】肯定的回答は、教職員 88.6%、保護者 83.2%、生徒が 93.2% である。宇都宮市の中学校の平均よりはやや低い値ではあるが、本校としては、昨年度よりは高い値になっている。 【次年度の方針】生徒一人ひとりが居がいのある学級経営、特に、互いを励まし合える温かい学級作りに努めるとともに、積極的な励ましや称賛の言葉かけをする。また、スタンダードダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとの把握に努め、解決に向けて支援することで楽しい学校生活を送れるようにする。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	外国人生徒の日本語の力に応じ、当該生徒の母語で日本語を指導する母語指導者と、日本語で日本語を指導する日本語ボランティアと連携し、外国人児童生徒の日本語の力に応じた日本語指導を行ったり、保護者への通訳や翻訳を依頼したりするよう努める。	B	【達成状況】肯定的回答は、教職員が 95.5%と昨年の回答と比しても5%程伸びている。 【次年度の方針】必要に応じて市教育委員会や市教育センター等の関係諸機関と連携しながら本人・保護者の要望に応えたり、学校生活に必要な支援を行ったりしていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒会活動の充実を図り、特に学校行事等では、生徒の自発的・自治的活動を積極的に取り入れ、成就感を味わわせる。	B	【達成状況】保護者、生徒、地域住民は 80%を超えているが、教職員は 4.1 ポイント下がって数値指標に届かなかった。通常の教育活動が十分に実施できなかったことが原因と思われる。 【次年度の方針】学校の正常な活動を願いつつ、一人ひとりが大きな声であいさつをしたり返事をしたりさせることで学校の活気を向上させていく。
A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	深い学びに結び付く授業を実践するため、育てたい力を明確にし、ICTの活用や言語活動の充実を図る。	B	【達成状況】教職員は 95.5%、保護者は 80.1%、生徒は 91.9%であった。 【次年度の方針】ねらいを明確にした授業実践に努め、ICTのより一層の活用や、英語科・数学科においては、習熟度に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	「チーム星が丘」の力を最大限に生かせるよう、学校園司書、学力向上非常勤講師、かがやきルーム指導員、SC、SSW、MS、部活動指導員等多様なスタッフの専門性を発揮する場を設けるなど、管理職のマネジメントのもと、体制を整える。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答割合が昨年度の 65.1%から 84.1%と激増し、数値指標を超えた。コロナ禍の中、教職員が同一方向で動いたためと思われる。 【次年度の方針】常日頃から教職員同士がコミュニケーションを密に図り、多様なスタッフの専門性を生かして、協力して指導する体制を整える。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	長時間労働の改善のため、業務の精選・見直しを行う。また、外部人材の活用、他教員による業務支援など業務負担の軽減及び分散化を図る。勤務時間管理に努め、長時間勤務の改善に取り組むなどワークライフバランスを見直す。	A	【達成状況】教職員の肯定的回答割合が、昨年度の 44.2%から 45.5%に増加したものの数値指標には程遠い。 【次年度の方針】「働き方改革」を推進し、引き続き勤務時間の短縮に努め、リフレッシュデーを月 1 回は設けるようにする。事務の簡略化と仕事内容の精選に努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<u>小中一貫の日を有効活用し、積極的に部会運営を行い、小中が連携して地域学校園の教育ビジョンの具現化に努める。</u>	B	【達成状況】 ・肯定的回答が教職員 84.1%、保護者 89.4%、地域住民 91.7%、生徒 72.0% である。コロナ禍で様々な活動が実施できなかったため地域住民、生徒の肯定的回答が下がった。 【次年度の方針】 ・各分科会等における連携を継続する。 ・「小中交流あいさつ運動」、「乗り入れ授業」などの取組が充実するよう、情報交換を密に図っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	地域協議会の事業や活動を P T A や保護者会等で報告し、ボランティア活動の理解と推進を図り、地域の教育資源の活用を進める。	B	【達成状況】コロナ禍で地域での活動ができなかったため、軒並み肯定的回答が下がった。 【次年度の方針】地域に愛される星中生の育成のためにも、地域の教育力を大いに活用する。地域のボランティア活動や行事に、生徒が参加しやすいような環境の整備に努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	総合的な学習の時間で、地域・企業と連携した「地域の方々・先輩・専門的な知識を持つ方に学ぶ」授業を行う。保護者会や三者懇談を活用し、学校の取組や生徒の様子など積極的に情報発信する。「スタンダードダイアリー」を活用して家庭との連絡を密にし、相互理解を図る。家庭、地域からの理解を深めるために、土曜授業を実施する。	B	【達成状況】コロナ禍で各種行事が中止・変更を余儀なくされたため、軒並み肯定的回答が下がった。 【次年度の方針】保護者会や三者懇談に加え、各種便りや学校の HP を利用し、積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を密にしていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	日常的な点検の他毎月 1 回、生徒等が多く使用する設備・施設について、計画的かつ組織的に安全点検を実施する。 体育祭などの学校行事の前後や、暴風雨、地震、近隣での火災などの災害時や近隣で危害のおそれのある犯罪の発生時など、必要に応じて点検項目を設定し、臨時に安全点検を実施する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答が教職員 88.6%、保護者 90.8%（昨年度より 3.6 ポイント上回る）、地域住民 100%となっており、目標は達成できている。 【次年度の方針】 ・さらなる安全な環境づくりや災害時の対策を強化し学校が常に安全な状況を保てるよう努力を継続したい。
A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	図書選定委員会を開催し、資料として活用できる図書等を計画的に整備する。 学習内容に応じ、課題の発見・解決のために必要な資料等を市立図書館・<u>地域学校園内の学校から借りる</u>など、積極的に連携する。	A	【達成状況】教職員は 77.3%、保護者は 68.5%、生徒は 75.9%とすべてにおいて微増したものの数値指標には届いていない。 【次年度の方針】GIGA スクール実施に伴い、タブレット型パソコンが配付されたので、教職員がしっかりと研修を積み、生徒が有効に活用できるように指導する。

	B 4 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	誰に対しても気持ちのよいあいさつを教職員自らが率先して行うとともに、相手の立場や気持ちになって、丁寧に接するよう努める。	B 【達成状況】教職員は 95.5%、保護者は 89.8%、地域住民は 100%、生徒は 87.0%で数値指標を超えている。 【次年度の方針】あいさつができる明るい星中を目指して、教職員が自ら明るいあいさつを心がけ、率先垂範する。
	B 5 教職員は生徒が学び合い認め合う場を数多く設け自己肯定感を高めるなど、指導力の向上に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	指導力の向上を目指した研究プロジェクトに取り組み、全ての教科で校内授業研究会を実施する。 授業を展開するうえで、生徒相互が学び合い認め合う場を数多く設ける。	B 【達成状況】教職員 95.5%、保護者 85.7%、生徒 94.2%とそれぞれ 80%を超えている。要請訪問においては、教科の枠を超えて全職員で授業研究会を実施することができた。 【次年度の方針】授業の中で生徒相互が自分の考えを説明したり、教えあったりする学び合いや認め合う場面を意図的に設定し、生徒の自己肯定感を助長するよう指導していく。
	B 6 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識及び自己肯定感を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒指導部会を中心に、生徒一人ひとりの状況に配慮しながら段階的な粘り強い生徒指導を推進する。また、部会記録を回覧し、生徒への指導に対し共通理解を図ることで、全校体制で公平かつ一貫した生徒指導を行う。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が 93.2%、保護者 82.9%、生徒 87.4%と昨年度の回答から大きく伸びている。 【次年度の方針】教育相談部会や生徒指導部会での情報交換を確実にに行い、個々の生徒の状況を的確に把握する。また、積極的に称賛や支援を行い自己肯定感の醸成に努め、正しい人権感覚を持って指導に当たる。
	本校の特色・課題等 B 7 生徒は、総合的な学習等において、自らの課題を設定し、地域をフィールドにした調査研究活動を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	地域をフィールドにした調査研究活動が意欲的に行われるよう、発達の段階に応じた生徒の興味・関心に基づく適切な課題を設定し、追究させる。	B 【達成状況】教職員は 70.5%であるが、生徒は 88.6%であった。 【次年度の方針】総合的な学習の時間において各学年の発達段階に配慮した適切なテーマ「地域を知る」「地域に学ぶ」「地域に貢献する」のもと、生徒一人一人の課題に応じた指導支援に努める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 生徒たちは、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな学校行事が中止になっている中で、今できることに主体的に取り組み、成果を上げている。
- 保護者による評価では、いじめ対策や思いやりの心の醸成について、他校と比較して肯定的回答の割合が低い。保護者にとってたいへん意識の高い評価項目であり、継続した取組と一層の努力が必要と考える。
- 小中一貫教育については、コロナ禍により、取り組みが不十分になっているが、教職員と保護者においては、前年度に比べて若干肯定的回答の割合が増加した。今後も、小中一貫教育について生徒に理解を深めさせ、より身近なものとなるよう指導・支援を行う。
- 地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、9 か年を見通した指導計画を作成し、星が丘地域学校園教育ビジョン「未来を見つめ、学び続ける力の育成」をめざし、小中一貫教育をさらに推し進める。
- 本校生徒の授業への取り組み方はやや消極的で、改善が望まれるとの指摘もあった。生徒が活発に話し合う学習活動の工夫や積極的な発表等で主体的に授業に臨めるための ICT 機器の活用など、教職員一人一人がスキルアップ研修を重ね、授業力の向上を目指す。
- 宇都宮学や持続可能な開発のための教育 (ESD) に関しては、昨年度に比べかなり認知されてきた、さらに周知の仕方を含めて様々な方策を検討、実施していく必要がある。
- 各種便りの積極的な発行や、ホームページの更新に努めるなど、各種広報活動を充実させた。保護者や地域への情報発信にさらに努め、開かれた学校づくりを推進する。
- 地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであった。これからも地域の方々に信頼され応援していただける学校づくりを推進する。

6 学校関係者評価

- コロナ禍の中で、学習内容や携帯に様々な制約がある中、工夫をしながら学習に取り組んでいる。特に総合的な学習の時間における探究的な学習では、かなり細かく調べ学習を行い、発表につなげるなど本校生徒の良さが見受けられ

る。

- (2) 小学生との定期的なあいさつ運動は、実施する中学生にとって自己肯定感を高めることとなっている。小学生にとっても憧れの存在として、中学生を捉える機会となっている。良い意味での循環となっていると考えられる。
- (3) 星中生の多方面にわたるボランティア活動はたいへん活発であり、地域としてもありがたい。今後より多くの生徒にボランティアの機会を与えてほしい。
- (4) 持続可能な開発のための教育(ESD)に関しては、各教科等で環境学習に取り組ませる際、生徒の身近な問題等を可視化させるなどして「持続可能な社会」につながることを意識させるとよい。
- (5) 生徒の登下校の安全確保という視点からも環境点検をさらに推し進めて、改善を要する点等を関係機関に積極的に発信してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) ○星が丘地域学校園教育ビジョンである「**未来を見つめ、学び続ける力の育成**」のために、自己肯定感の高揚をキーワードに学区内小学校との連携をより一層強化し、その実現を目指す。
- (2) 学力の向上については、学習習慣の定着を図る取組を継続させるとともに、学力向上プロジェクト等で教員が学校課題を自分のものとして捉え積極的に授業の改善を図る。また、授業力の向上を目指して全体研修会を実施する。
- (3) ○地域学校園における各部会の連携を深め、小中間での指導法の研究や教科の関連をさらに検討し実践することで、小中一貫教育をさらに推し進めていく。
- (4) ○社会性を身に付け、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、教科としての道徳を中心に全教育活動の中で実施される道徳教育を意図的・計画的・横断的に行う。さらに、小中9か年の星が丘地域学校園の指導計画に基づいて、道徳的実践力の涵養を図る。
- (5) 健やかな体を育成するために、保健体育の授業を中心に教育課程内及び部活動を通して、健康の維持と体力の向上についての指導を計画的・継続的に行う。